

## Teaching Elementary Japanese using dramatic approach

### 演劇的手法を使った初級日本語教育

**Katsuhiko Ito**

(Nanzan University)

本発表は、筆者が勤務する大学の日本語集中コース（約4ヶ月間）において行われた、演劇的手法を使った初級日本語教育を報告するものである。

#### <活動の目的>

日本語を使ったコミュニケーション能力のベースアップ

- ① 日本語の発音（発声方法の理解、発音、発声の重要性の理解）や音声的な表現方法（イントネーション、プロソディー等）の改善。
- ② 学習した文型の機能を理解し、それらを流れのある会話の中で使用する。
- ③ ドラマを演じることで、言語面だけではない、より豊かな表現方法を考える。

#### <活動の方法>

週に一度、または二度、45分の授業で行った。

- ① 発声練習には演劇的な発声練習法を用いた。
- ② 演技指導には基本的な演技指導の他に「インプロビゼーション」と呼ばれる即興劇の指導法を用いた。
- ③ コースは3ステージ制をとった。まず、3人グループでのドラマを行い、次に朗読を3人グループで行った。最後は最初と同様に4～5人のグループで、ドラマを演じさせた。

#### <活動の結果>

- ① 発声方法の理解による、日本語の発声（音声上の表現も含む）の向上。
  - ② コンテキストのある中での会話やフィラーの使用（発話）、ノンバーバルコミュニケーションの使用による学習効果
  - ③ スクリプトを自分たちで書くことによる一定の長さの談話の生成とそれを発話の中で産出すること（言語機能の理解）による学習効果
  - ④ グループ内でのインターアクションによるピア的な学習効果
- 結果としては総合的な表現方法が非常に豊かになったと思われる。日本語を使用することが、単なる練習ではなく、言葉自体が価値を持つことで、喜びになり、それらが表現の豊かさ（自己開示）をもたらしたと考えられる。